

フィールドワークの基本について

中嶋 圭介

神戸市外国語大学外国語学部准教授
(米国)地球高齢化研究所非常勤上級研究員

2014年10月2日
神戸市立葺合高校

今日のお題

- フィールドワークの基本
- 神戸市外国語大学の「神戸研究」の紹介

フィールドワークとは

□ 途上国開発援助スタッフの「現場仕事」

→ 国際連合・世界銀行などの国際開発援助機関、日本の国際協力機構 (JICA)、非政府組織(NGO)などのスタッフが、開発援助を受ける途上国現地に長期駐在し、プロジェクトの運営・実施に当たること。

□ 研究者・専門家の「現地調査」

→ 研究者・専門家が現地に赴き、文献調査、サンプル・データ収集、インタビュー・撮影などの調査を行うこと。

→ 「現地視察」という言葉で呼ばれることもある。他の地域や組織の成功や失敗から学ぶため、現地視察ツアーを企画・実施するもの。

→ 学生参加の場合、「スタディツアー」と呼ばれることもある。教員が企画・引率・指導に当たる。小学校などで行われる「社会見学」もこの仲間。

スタディツアーの目的

- 世の中の全ての情報が活字・映像として教材化されているわけではない。
- 紙(画)面ではなく、実際に自分の目で見て、聞いて、体感することから学べることもある。
- 教室とは異なる教育環境の中で引率者(先生)や他のツアー参加者(クラスメイト)と協同(協働)。
- 親睦を深め、一体感を得る。

スタディツアーの手順

- テーマの大枠や地域の設定(先生)
- テーマ・地域のリサーチ(学生)
インターネット、図書館・・・ウェブ、書籍、雑誌、新聞、TV、DVD
- 問題意識の明確化・各自のテーマを特定(学生)
- ツアーの企画(先生)
- ツアーの実施(先生・学生)
- 報告書の作成(学生)
- 報告会の実施(先生・学生)

スタディツアーの心得

□ 最も重要なのは事前準備。しっかり背景リサーチをし、問題を特定し、ツアーに参加するにあたって自分は何を現地で見て、聞いて、確認してきたいのかを明らかにしておくこと。

社会見学
修学旅行



スタディツアー

□ (ツアー参加中) 詳細な日誌をつけること。題、日時・訪問先、面談相手、速記メモを簡潔に文章化。先方の説明、発見、確認事項、印象、感想。

神戸市外国語大学「神戸研究」

□ 「神戸研究」

外国語学部ICC(異文化コミュニケーション)コース2～4年生対象講義

この授業では、国際都市神戸と世界の「つながり」に焦点を当てる。歴史、文化、宗教、教育、建築、ファッション、防災、観光、政治、ビジネスなど神戸の特徴を切り口に選び、文献調査、データ収集、インタビュー等を行い、その結果を前期は英語でプレゼンテーション、後期は英語論考にまとめる。

英語プレゼン・論考の内容は、学んだことをまとめるだけに留まらず、批判的考察によって課題を明らかにし、未来志向、問題解決型の提案を含むようにする。このような知的訓練を通して、神戸から世界を、世界から神戸を捉える双方向の視点や思考能力、実践的な問題解決能力を養い、グローバル人材の育成を目指す。

「神戸研究」フィールドワークの手順

- 講義テーマの大枠とリサーチの4つの指標提示(先生)
- 背景リサーチ(学生)
- クラス内ブレインストーミング
- 問題意識の明確化・各自のテーマを特定(学生)
- プレゼン・論考原稿の執筆(学生)・添削(先生)
- インタビュー先の特定(学生・先生)
- インタビュー実施(学生・先生)
- プレゼン・論考清書(学生)・クラス内で発表

「神戸研究」フィールドワークの手順

□ テーマの大枠や地域の設定・・・4つの指標

1. Importance **(重要性)**・・・not just because of your personal interests but also societies' needs should be behind your topic/thesis. In other words, you should be able to explain (and this should be certainly a part of your introduction in your writing/presentation) why it is important to examine your topic/thesis for the City of Kobe, Japan, Germany, etc.

2. Linkages between Kobe and outside worlds **(神戸と世界の接点)**・・・at least one international angle should be included. The “angle” could be through international flows of people, money, goods & services, ideas, etc. Another example could be using a perspective of German-Japan comparisons.

3. Problem-solving **(問題解決型)**・・・do not just summarize and report what you learned in your research. I would like you to critically assess recent trends and current states of something you picked to meet the above first and second criteria, and come up with a recommendation. Of course, this does not have to be a grand strategy to solve everything at once. Even a tiny but constructive suggestion for a better change is fine.

4. Forward-looking **(未来志向)**・・・directly related to the above third point. For your presentation's to be problem-solving oriented, naturally it should also be forward looking, meaning that, based on your careful analysis of the past trends and the current state, you should then look some years into the future and present your recommendation and persuasive reasons why it should work.

「神戸研究」フィールドワークの手順

- 【貿易自由化&神戸牛】“Kobe Beef Should Be Authentic in Foreign Countries”
- 【医療産業都市構想&医療観光】“Feel Kobe and Medical Service”
- 【医療産業都市構想&産業振興】“Kobe Biomedical Innovation Cluster (KBIC) for the Future of the Kobe City Economy”
- 【外資系企業誘致】“Can Kobe Be a Fascinating City Again?”
- 【国際観光&留学生施策】“International Tourism: Promote Kobe by Accepting More International Students”
- 【酒蔵観光】“Sake Brewery Tourism: Promoting Nada-Gogo and Exportation”
- 【国際観光】“Tourism in Kobe: Arima Onsen”
- 【国際観光】“Advertise Kobe to the World and Attract Foreign Tourists”
- 【防災】“Disaster Prevention”
- 【留学生施策】“Kobe: A Center of International Education?”

参考資料



荒木徹也・井上真 編
『フィールドワークからの国際協力』
(2009年)昭和堂